

2023年11月8日

各位

三井住友信託銀行株式会社

インパクト評価の支援を通じた「橋本市インパクトレポート」策定のお知らせ

三井住友信託銀行株式会社(取締役社長:大山 一也、以下「当社」)は、和歌山県橋本市(以下、橋本市)とともに、パナソニック株式会社(以下、パナソニック)が取り組む「高齢化社会に対応した廃棄物処理システム構築に向けた実証実験(※1)」を対象とした「橋本市インパクトレポート」(以下、「本レポート」)を策定しましたのでお知らせします。

橋本市は、市を取り巻くごみ処理課題の解決と環境に配慮した循環型のまちづくりを目指し、様々な検討を行っています。橋本市とパナソニックは2021年より「地域内のごみ処理課題の解決」を柱に市民サービスの向上に関する連携協定を締結し新しい廃棄物処理システム構築に向けた実証実験を行っており、当社はこの実証実験におけるインパクト評価を支援してきました。

今般作成した本レポートでは、課題解決手段の一つとして検討された「市民・企業・行政が連携した新しいごみ収集の仕組み(住民共働型の収集)」の普及が実現した際、どのようなインパクト(好影響)が実現されるかについてロジックモデルを用いて可視化しました(本レポートにおける記載内容は検討段階のものであり、実際の取り組みが確定したものではありません)。詳細は別紙をご参照ください。

当社は「社会的価値創出と経済的価値創出の両立」を目指しています。自治体や企業、地域金融機関が連携した地域エコシステムの構築および様々な検討・取り組みに対し、インパクト評価やインパクトファイナンスを活用することを通じて、日本のサーキュラー・エコノミーへの移行を推進していきます。

(※1)連携協定について(外部リンク)

橋本市「パナソニック株式会社との地域活性化に関する連携協定を締結しました」(2021年7月15日)

<https://www.city.hashimoto.lg.jp/guide/somubu/seikatsukankyo/gomi/kateigomi/11805.html>

パナソニック「高齢化社会に対応した廃棄物処理システム構築の取り組みを開始」(2021年7月15日)

<https://news.panasonic.com/jp/press/jn210715-1>

(※2)インパクト評価

ある企業の製品・サービス・活動が社会・環境・経済に及ぼす影響(インパクト)を、可視化して定量的、定性的に評価する手法です。企業活動からインパクト創出までの過程をロジックモデルにより可視化します。可視化することによりステークホルダーとの合意形成および、インパクト最大化に向けた事業の改善が可能となります。

以上

別紙

IMPACT REPORT

橋本市 インパクトレポート



APPROACH

インパクト評価

概要

ある事業が社会・環境・経済にもたらす変化(インパクト)を特定し、指標(KPI:Key Performance Indicator)を用いて成果を把握、モニタリングすることで良い変化(ポジティブ・インパクト)を伸ばし、悪い変化(ネガティブ・インパクト)を抑制します

評価プロセス

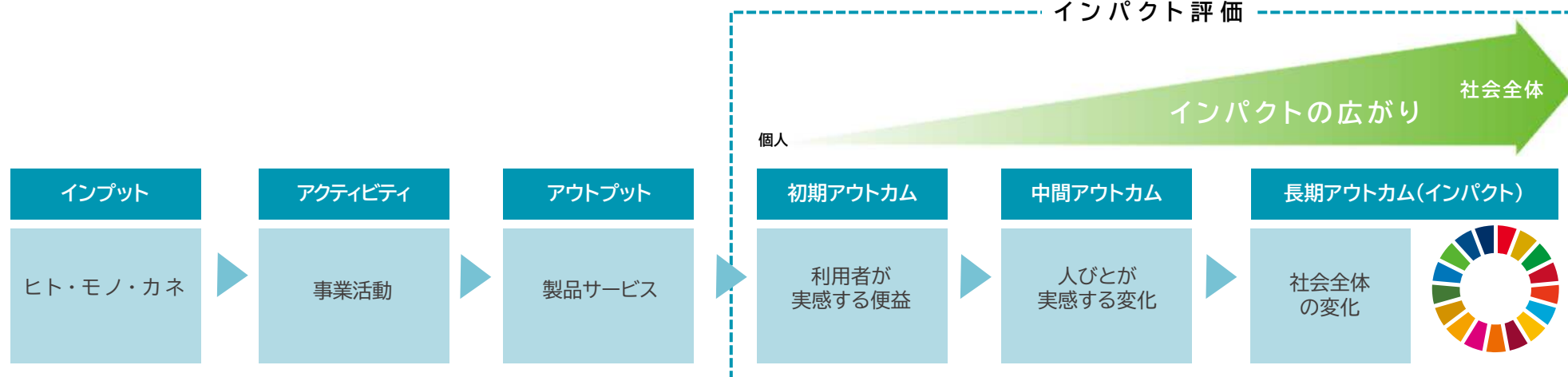


- Plan** 事業→インパクトの経路を可視化(ロジックモデルの策定) KPIと目標設定およびアクションプラン(行動計画)策定
- Do** アクションプランの遂行
- Check** KPIの設定目標を用いた進捗確認
- Action** 課題解決策の策定 アクションプランの遂行

効果

- 事業の社会的意義を分かりやすく伝え、関係者の理解や共感が得られます
- 事業の透明性が向上し、説明責任を果たせます
- 事業の進捗管理、課題に対する対応の精度が向上します

インパクト評価



橋本市の概要と将来像

将来像

～人輝き あたたかさ湧きでる みんなで創造する 元気なまち 橋本～
の実現を目指して



【面積】130.55平方キロメートル

【人口】59,874人(2023.7.31現在)

橋本市は和歌山県北東端の県境付近に位置し、大阪都心部へ約40分という立地でありながら、世界遺産・高野山の麓で山河の自然も豊かであることから、都市と田舎の暮らしが共存するまちである。人口減少や高齢化等に起因した課題が山積するなか、本市では過去から生ごみの減量啓発などさまざまな取り組みの実施により、ごみの減量やリサイクルを進め、循環型社会の実現を目指している。

基本目標

産業の振興と雇用を創出し
定住できるまち

ともに
創る

連携

連携

協働

ともに
守る

ともに
育てる

連携

安全・安心な暮らしを
守り支えるまち

子どもから高齢者まで
ともに育み学び合うまち

ISSUE

ごみ処理に関する橋本市の課題

課題 市を取り巻く課題について、市民の皆様とともに解決を目指し、暮らしやすい橋本市を目指します

市を取り巻く課題

少子・高齢化

財源不足

広域ごみ処理場の老朽化

ごみ出し困難者への対応

担い手不足

環境対応
(CO₂削減)

etc

橋本市が目指す活動

焼却ごみの削減促進
(CO₂削減・処理費用削減)



ごみの収集効率化・
データ活用



分別を促す仕組み作り



市民同士の
助け合いの促進



市民の皆さまに
ごみ問題を知って頂く取組



暮らしやすさの向上



「資源を分別して、燃やすごみ、
埋め立てるごみを減らそう」

有限な環境資源を次世代に引き
継ぐ、環境に配慮した循環型の
まちづくり

SOLUTION

解決に向けた歩みと目指す姿

解決案

市民・企業・行政が連携した新しいごみ収集※の仕組み(住民協働型の収集)

※ 一部の市民の皆様のご協力のもと、実証実験をおこないました

1

市民参加型ワークショップ

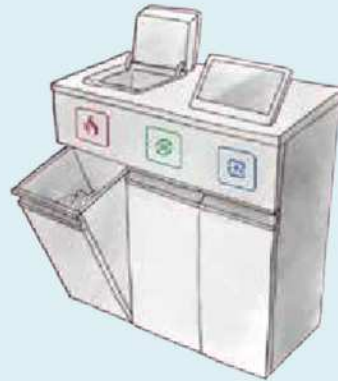


パナソニック(株)と橋本市のワークショップ

- ・ 市民同士の繋がり
- ・ ごみ問題の理解
- ・ 環境意識の醸成と行動変容
(混ぜればごみ、分ければ資源)

2

スマートごみ箱



分別の協力

1

分別を促す機能(分別の見える化) 生ごみ乾燥(減容機能)

分別の実施

効果の見える化

2

見える化機能(コストやCO₂削減量など)

3

通信機能(ごみの重量センサーによる状況確認)

収集運搬の効率化

3

分別・戸別収集



- ・ 個人の分別の強化
- ・ 効率的な行政回収により、収集拠点への持参や、維持管理が不要に

目指す姿

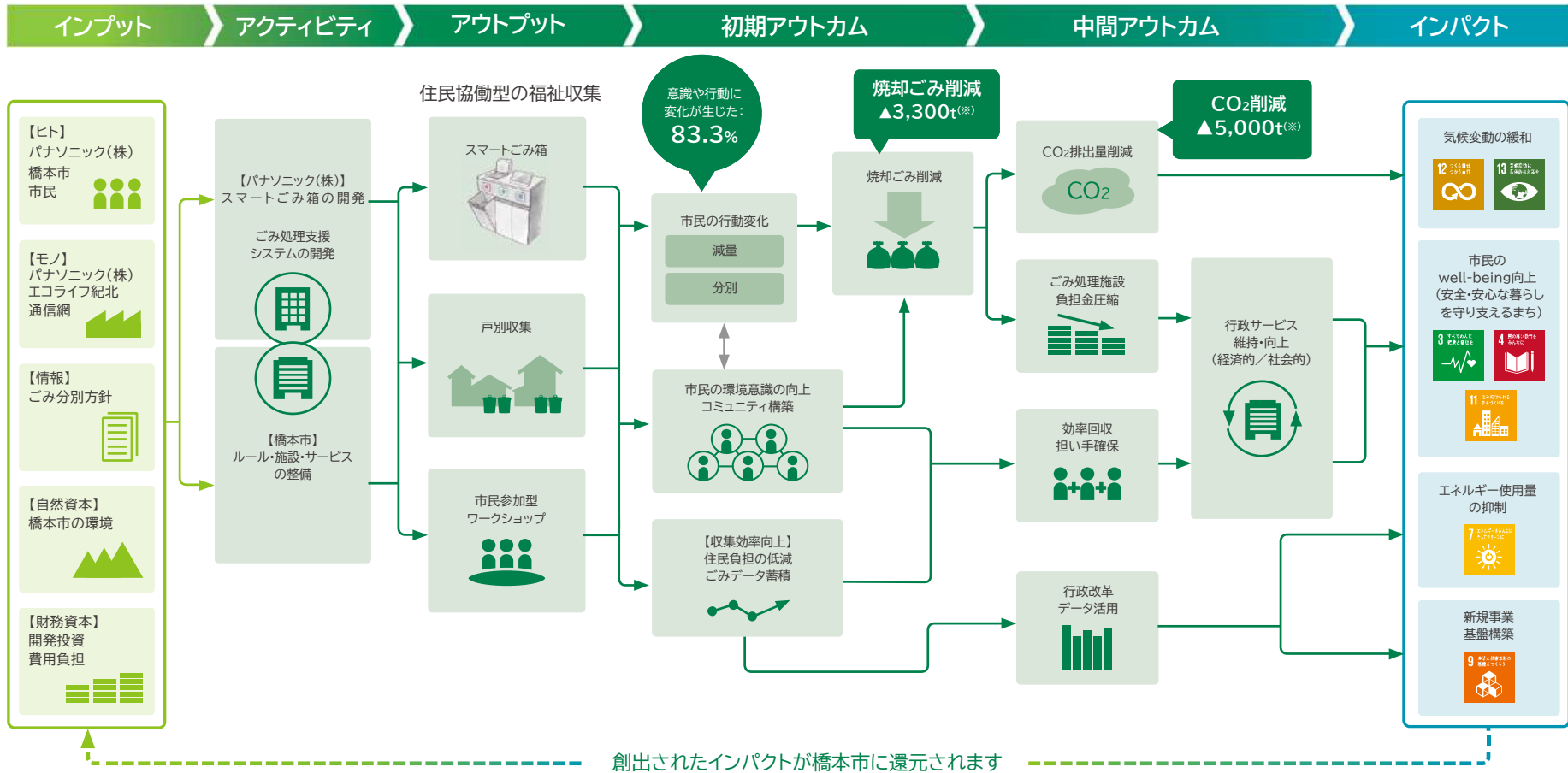
「資源を分別して、燃やすごみ、埋め立てるごみを減らそう」

有限な環境資源を次世代に引き継ぐ、環境に配慮した循環型のまちづくり

インパクトストーリー

結果

新しいごみ収集の仕組みによって住みやすいまちが実現されます。



※算出方法 (R1年比較・年ベース)

実証実験結果から算出した削減効果を橋本市全世帯 (約27,000世帯) 導入時の想定

焼却ごみ削減期待量 (概算): 生ごみ▲800t 紙ごみ▲1,400t プラごみ▲1,100t

Q CO₂ 5,000t ほどのくらい?

A 杉の木で約56.8万本の削減効果です!